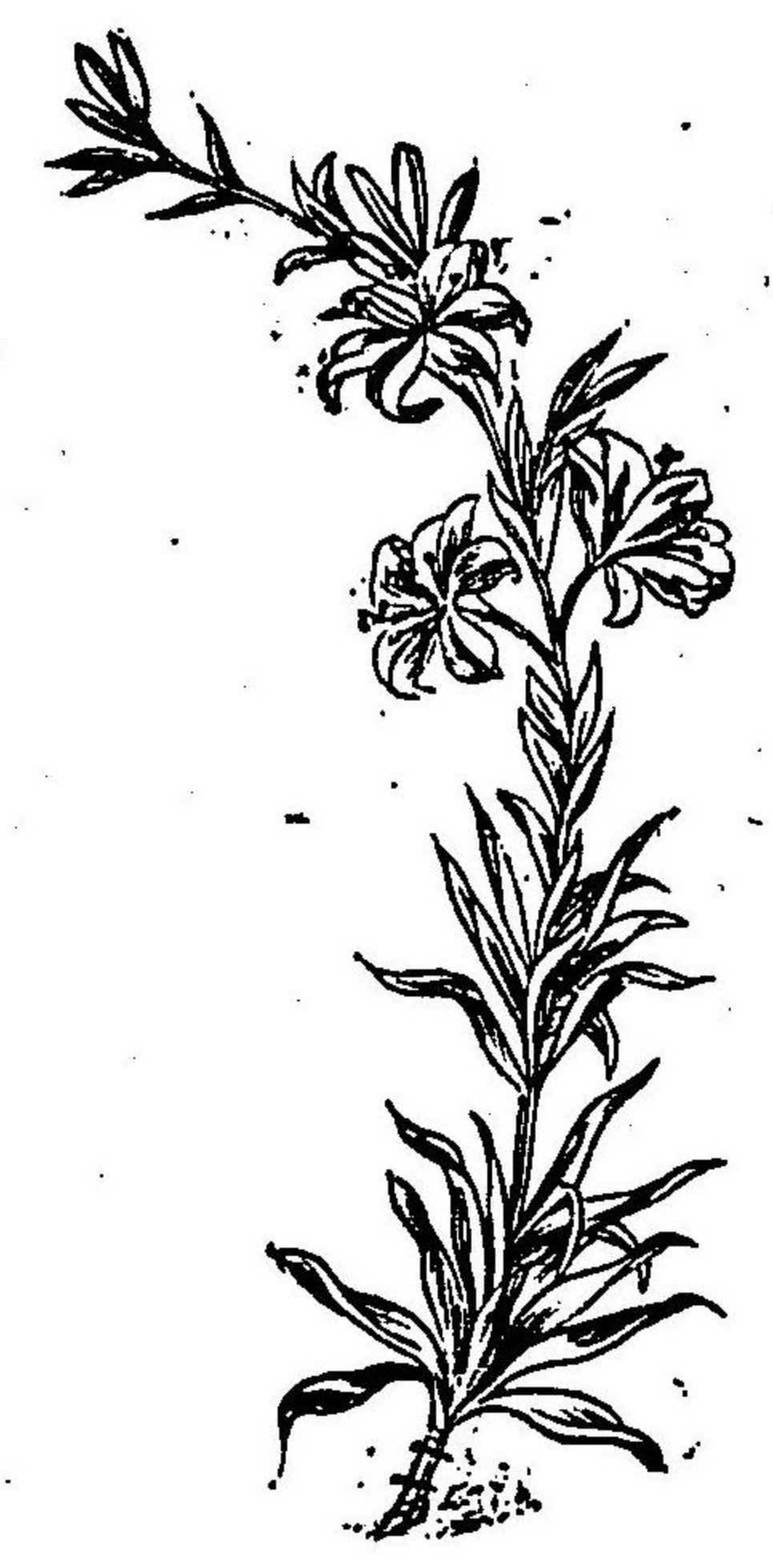
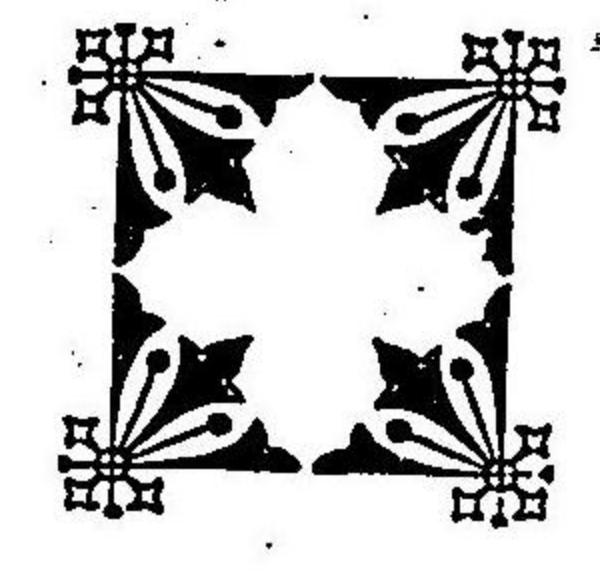


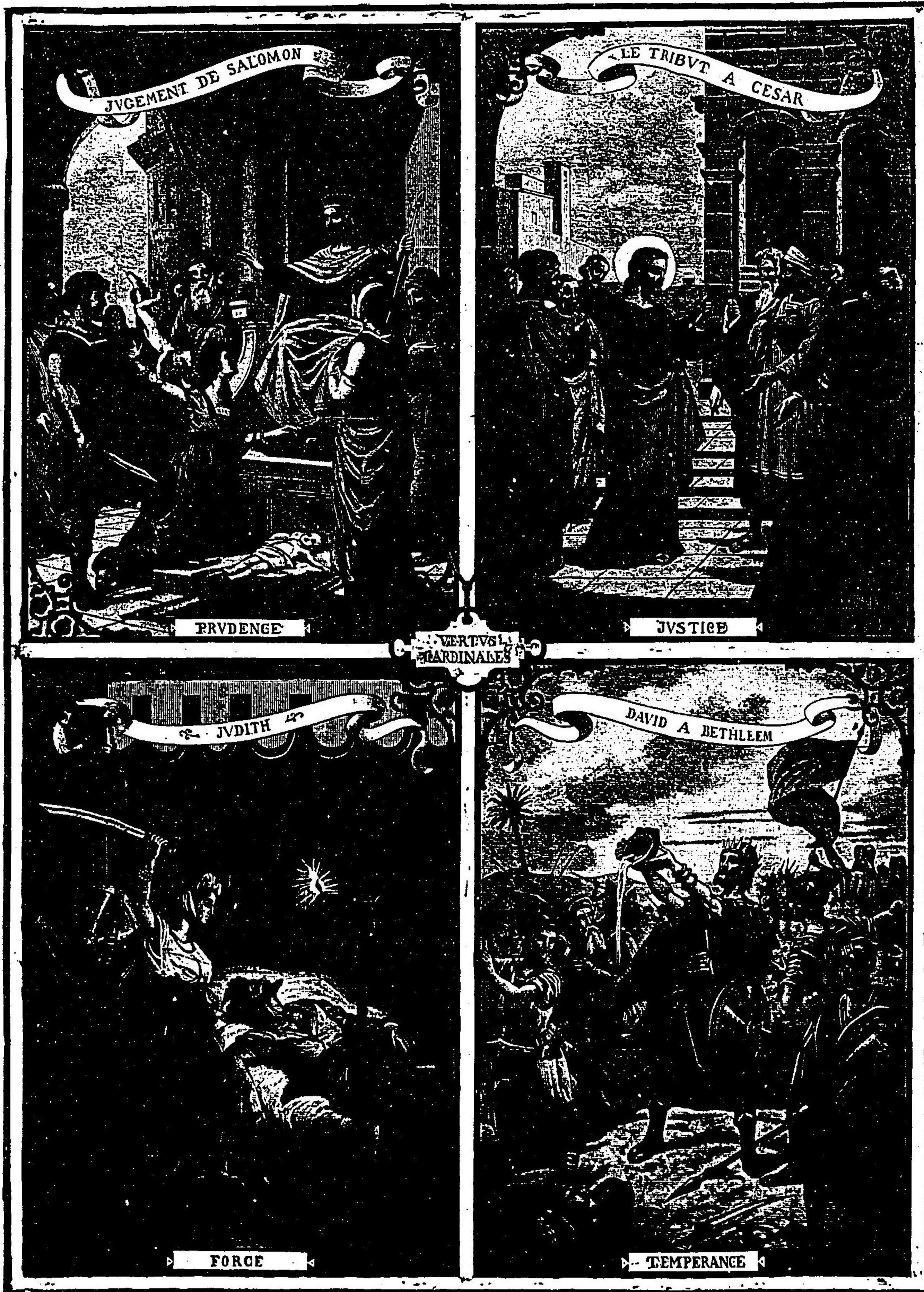


と、申して聖徳を示しました。

十七 右方に於て、左手にて其燃ゆる心を見せ、右手には聖体のパンを載せたる聖爵を
 持てる處女は愛徳の表象であります。燃ゆる心は、我等が心を燃して天主様を愛するは
 ならぬと云ふ事を示し、聖爵とパンとは、我靈魂の内に天主様の愛を養ふ主要なるもの
 は、聖体であること云ふ事を示すのであります。

十八 愛徳を象る處女の下には、イエズス、キリスト様が、フアリゼオ徒シモンの家に
 於て、食卓に就て居られます。マリヤ、マダレナが、香油の器を持参して、御足に
 油を塗る前に、御足の下に平伏して、其涙を以て御足を濡し、其毛髪を以て之を拭ふ所
 が書いてあります。イエズス、キリスト様は、シモンに向つて「我汝に告ぐ、彼は大に
 愛したるに由て、其多くの罪も赦さる」と申して、マダレナの愛徳を御稱賛になりました。



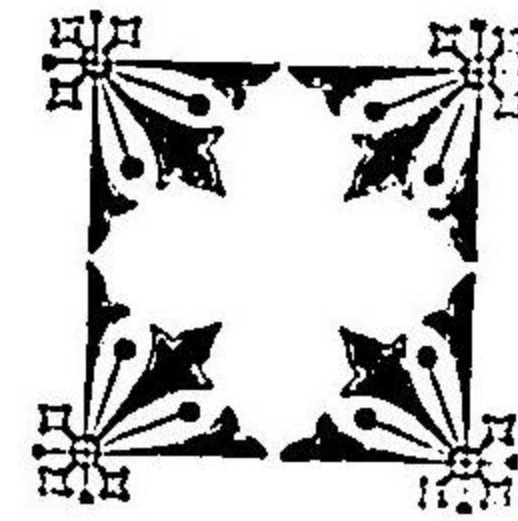


Maison de la Bonne Presse, 5, rue Bayard, Paris 8.

と、申して愛徳を示しました。

十七 右方に於て、左手にて其燃ゆる心を見せ、右手には聖体のパンを載せたる聖爵を持つて居る處女は愛徳の表象であります。燃ゆる心は、我等が心を燃して天主様を愛さねばならずと云ふ事を示し、聖爵とパンとは、我靈魂の内に天主様の愛を養ふ主要なるものは、聖体であること云ふ事を示すのであります。

十八 愛徳を象る處女の下には、イノス、マリスタ様が、フアリゼオ徒シモンの家に於て、食卓に就て居られますと、マリア、マダレナが、香油の器を持参して、御足に油を塗る前に、御足の下に平伏して、其涙を以て御足を濡し、其毛髪を以て之を拭ふ所が描いてあります。イノス、マリスタ様は、シモンに向つて、「我汝に告ぐ、彼は大に愛したるに由て、其多くの罪も赦さる」と申して、マダレナの愛徳を御稱賛になりました。



徳に就て

第六十三回

◎ 權徳の事

一 倫理上の徳とは、直接に我風俗を取繕り、我行状を正しくする徳であります。
二 倫理上の重要なる徳は、賢明、正義、武勇、節制の四であります。
三 外教の哲學者、此四の徳を性徳として認め、且教へました。然るにキリスト教は、聖徳に依つて此徳を超越徳と爲し、且之を堅固にして、一層高尚な目的に赴かせたのであります。

◎ 賢明の事

四 超越徳としての賢明とは、我等の智慧を照し且我等をして教養を得る爲に、最も確實なる方法を、授けざる徳であります。

◎ 正義の事

五 超越徳としての正義とは、我等をして天主様に對して、又他人に對して、盡すべき義務を盡させる徳であります。汝等の義、若し學士とフアリヤオ徒の義に勝らずば汝等天國に入らざるべし、我等眞人に對つて、我主が申されました通、此正義は、他人に對する我思想と、我感情とを正しく、自己に就ては、運送せねばならぬと云ふ事を教へます。

◎ 武勇の事

六 超越徳としての武勇とは、我等を激勵して、天主様が御命じになる、一切の義務を實行させる徳であります。

◎ 節制の事

七 キリスト教的節制とは、如何なる事物を使用するにも、其度を過ぎずして専ら賢明

を守らせますのみならず、利へて使用する時、此等の事物の中に、我幸福と至上の樂りてならぬと云ふ事を、教へる徳であります。

◎ 繪の説明

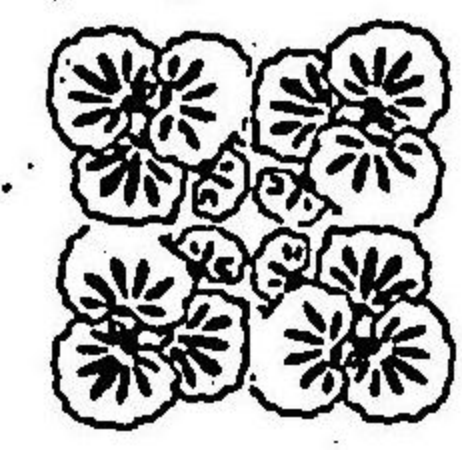
八 賢明は、此繪の上段の左方に於て、ナロモン王が、裁判して居る所を畫いて、現してあります。新に生れた子供を有する、二人の婦女が同一の家に住んで居りました。一夜一方の子供が死にましたから、其母は今一方の子供を取換へて、丁度自分の子供の様に、之を自分の側に寝かせて置きました。我子を取換へられた母親が、此事を察知しまして、ナロモン王に訴へました。賢明なる王は玉座に坐し、其前には二人の母親が居ります。死にました子供は、王の足下に置かれてあります。一名の兵卒が右手に劍を持ち、左手では、二人の母親が、各自自分ののであると相争ふ生きた子を提て居ります。ナロモン王は此生きた子を二に切つて、各自に半分宛渡す様に命じました。賢明の母親は、一際下、之を救ふとして、其儘此人に與へて下さいと申しました。虚偽の母親は、否、之を殺して誰にも渡さぬ様にする方が宜しと云ひました。其時王は、之を救ふとして、前の女人に渡せ、是が眞實の母であると申しました。

◎ 節制の事

九 上段の右方は、イエズス、キリスト様が、フアリヤオ徒と、ヘロデオ徒等に、正義に付て飲へて居られる所であります。一日彼等は我主を試みんとて、セザルに貢を納むるも宜しき乎と尋ねました。貨幣を出させて、此像と銘とは誰のなりやと云ふが反問になりました。彼等は、其はセザルのなりと答へました。其時王は、然らばセザルの物はセザルに返し、神の物は神に還へせと仰せられました。

◎ 武勇の事

十 下段の左方は、ワユテと云ふ女人が、非常な武勇を、現して居る所であります。此女は、其住んで居るヘンリアの市街が、アツンリア國の大將オロフェルムから、攻められんとて居るのを見て、我故國を救ふか、然らなければ自分は死のとの、決心を致しました。其所でピントリは、アツンリア國の大將オロフェルムに、不幸を運ぶ様な様をして、英胆を看せ、オロフェルムの陣へ逃込みました。大將は其美貌に打たれ、且は其話方の賢いのに驚き、彼の爲に大宴會を催し、非常に飲過しました。宴會は其室に成



りました者は、マニチと大將ばかりでありました。マニチは、オロフェルが甚だ
 酔ふて、寝込んで居るのを見て、其側に懸けてありました劍を執て、大將の頭を刎
 ました。
 十一 下段の右方には、マビ王の節制を示してあります。一日王は、ハトレムを占
 領して居りました、ヒリスラオ人と戦ひました。其時喉が非常に病んで誰かハトレム
 の門の側にある、貯水所の水を汲来りて、我に飲まする者ぞと嘆びました。ムルト三
 人の勇士が直に敵陣を通り、貯水所の水を汲取て来て、王に獻げました。然るに王は之を
 飲まずして、天主様に獻げ、嘘神よ、是は勿論無事でありませうか、私は如何して、此三
 勇士の血を飲むことが出来ませうか、私は如何して此三勇士が生命賭で、汲み来りまし
 た水を、飲むことが出来ませうかと申しました。



VOILA L'AGNEAU DE DIEU

LES PREMIERS CHRETIENS

HUMILITE

PAUVRETE

VERTUS
EVANGELIQUES

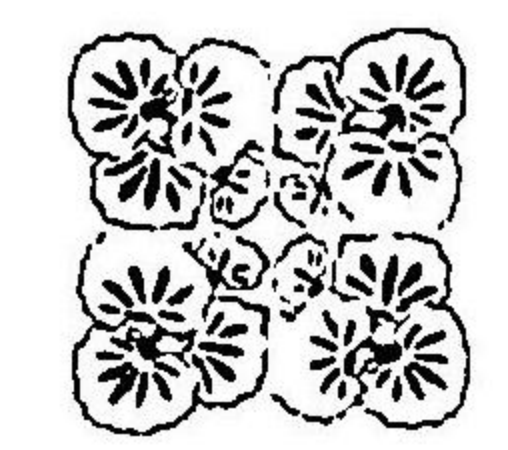
VOCACTION DES APOTRES

BIENHEUREUX LES COEURS PURS

OBÉISSANCE

CHASTETE

Maison de la Bonne Presse, 5, rue Bayard, Paris-P.



りました者は、ユダヤの大將ばかりでありました。ユダヤは、オロフェルメが甚だ
 酔ふて、寝込んで居るのを見て、其側に懸けてありました劍を執つて、大將の頸を刎
 ました。
 十一 下段の右方には、メロト王の節制を示してあります。一日王は、メロト王を占
 領して居りました、ヒリスタオ人と戦ひました。其時喉が非常に渴いて誰かメロト王
 の門の側にある、貯水所の水を汲来りて、我に飲まする者ぞと喚びました。メロト王
 人の勇士が直に敵陣を通り、貯水所の水を汲取て来て、王に献げました。然るに王は之を
 飲まずして、天主様に献げ、嗚呼、是は勿論無事でありませうか、私は如何して、此三
 勇士の血を飲むことが出来ませうか、私は如何して此三勇士が生命賭で、汲み来りまし
 た水を、飲むことが出来ませうかと申しました。

徳に就て

第六十四回

◎福音的徳

一 福音的徳とは、模範の中でありまして、福音書中に於て、特に獎勵された徳であります。

二 福音的徳には、謙遜、清貧、貞節、従順の四徳があります。

◎謙遜の事

三 謙遜とは、我等に缺點を認めしり、且我等の居て居ります少の善をも、天主様の有と思はせる徳であります。

◎清貧の事

四 清貧とは、我等の精神として、天主様のみに附随せる爲に、現世の財寶から離れさせる徳であります。

◎貞節の事

五 貞節とは、我等をして、禁じられた快楽を避けさせ、飲された快楽をするにも、其度を過ぎぬ様に、致させる徳であります。

◎従順の事

六 従順とは、我等をして總ての長上の者と、天主様の代理者であると思はせて、其正しい命令に、服従させる徳であります。

七 キリスト教的完全徳の基礎となるものは、前に述べました、此四徳であります。聖福音書は此四徳を一層高貴なるものと爲して、超性徳と爲し、之を完全なるものと爲して、人に示しました。之を示しましたのも、普通一般の人が、守らねばならぬ義務としてではなく、勸告として示したのであります。そこで特殊の天職を帯びて居ります水、殊に修七的生活を爲す者は、之を忠實に守らねばならぬ様に成りました。修七的生活

を爲す者は、謙遜と守ると同時に、是非辨別、貞節、従順の誓願を立て、之を守らねばなりません。是非倫理上の徳の勝れたる行爲であります。

八 福音書中に、イエズス、キリスト様が一人の青年と、此完全徳の道に招き給ふた事が録してあります。

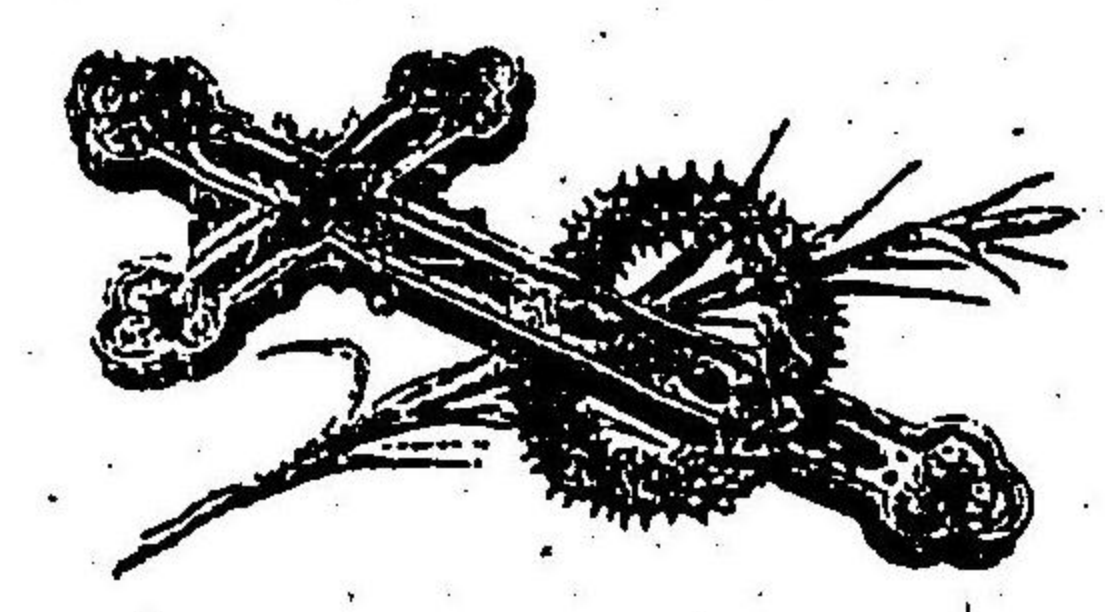
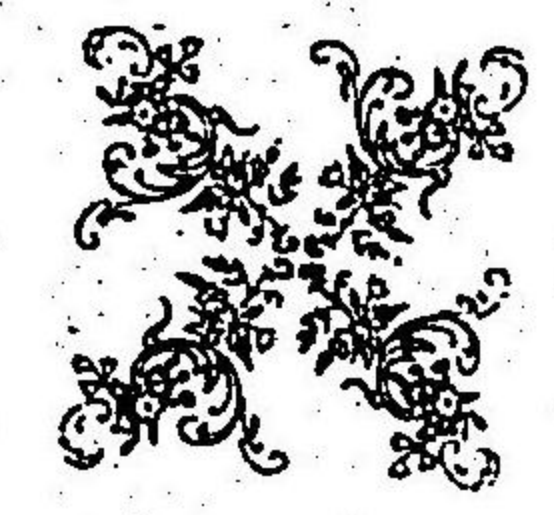
茲に一人の幸イエズスに問て言けるは、善き師よ、永生を保有するには何を爲すべしや。イエズス彼に言たまはく、何を我を善と謂ふや、惟神獨りの外には誰も善き者無し。汝は誠を知れり、云く、教す勿れ、姦淫する勿れ、偷盜する勿れ、偽證をなす勿れ、汝の父及母を敬へ。彼云へらく、我幼童より此等と悉く守れり。イエズス之を問くや、彼に言たまはく、汝ははくを缺けり。汝の所有を悉く賣りて、貧乏者に與へよ、然らば天にて財寶を有ん、而して來りて我に従へ。之を聞くや、彼憂しく成りぬ。若だ富る者なりければ也。イエズス彼が忠ふるを見て、言たまはく、富を有する者が神の國に入るは如何に難き哉。駱駝が針の穴を通るは富者の天國に入るよりも易し。之を聞ける者等皆けるは、然らば誰か救はるを得ん。イエズス彼等に言たまはく、人に能はざる所も神には能ふなり。ヨハネ福音書第十八章第二十七節

◎繪の説明

九 上段の左方には、謙遜の一例として、洗者聖ヨハネの事が書いてあります。一日ユデア人等は、イエルサレムから、司祭と、レツキ徒等をヨハネの許へ遣はして、汝は誰なりやと尋ねさせました。ヨハネは、我はキリストにも非ず、エリヤにも非ず、又豫言者にも非ずと告白しました。依て彼等はヨハネに向ひ、汝はキリストにも、エリヤにも、豫言者にも非ずば、何故洗禮を授くるやと申しました。其時ヨハネは、我は水を以て洗禮を授く、然れども汝等の中に汝等が知らざる者一人あり、彼は即ち我より後に來る可くして、而かも我に勝る者なり、我は其靴の紐を解くに足任へずと彼等に答へました。

十 聖命初代の信者は、清貧の徳を完全に行ひました。土地家産を有て居ります者は之を賣り、其代金と、上段の右方に書いてあります。聖徒等の許に持参し、之を受取

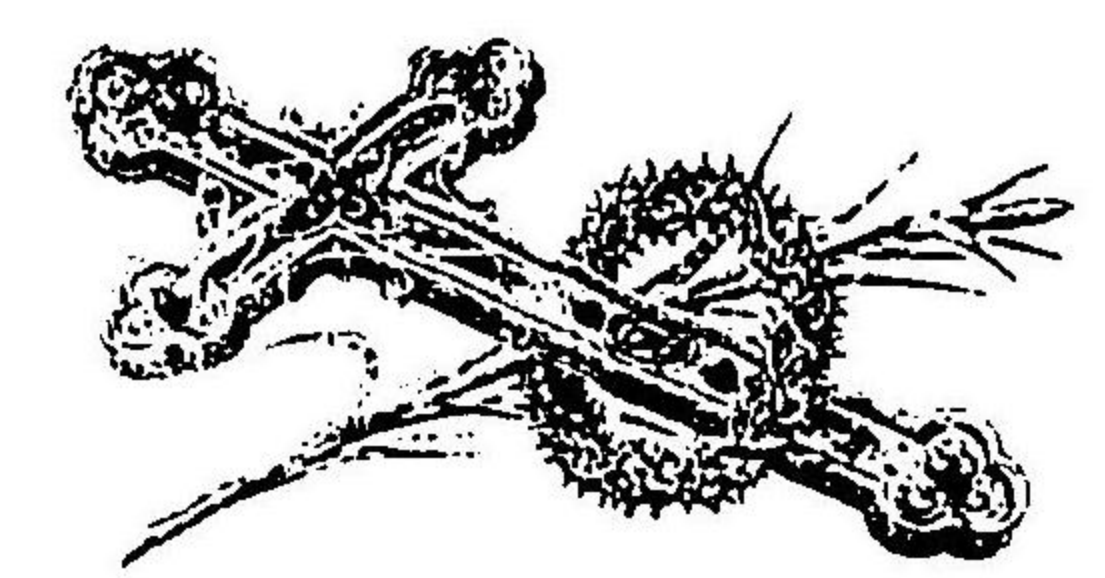
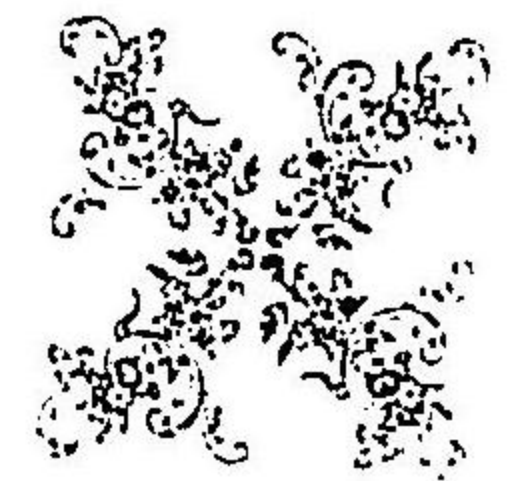
りました使徒等は、更に之を信者方に分配して居りました。
 十一 下段の左方には、完全なる従順の一例として、ゼムサオの子器ヤロが聖ヨハネ
 の事が書かれてあります。一日彼等が其網を修繕して居りますと、イエズス様が其所へ
 御越になつて「我に従へ」と仰せられました。其時彼等は、ゼムサオと共に働いて居り
 ました者等を、船中に殘して、直に我主に従ひ、弟子となりました。
 十二 下段の右方には、潔白なる心を殊に愛し給ふ、イエズス、キリスト様と、其御側
 には、童貞的なる、最も完全なる貞節に依て、著名なる、四位の聖人が居られます。御
 主の右方に居られます二人は、終生童貞なる聖マリア様と、洗者聖ヨハネであります。
 左側に居られますのは、聖ヨゼフと、福音史の聖ヨハネの二人であります。





Maison de la Bonne Presse, 5, rue Bayard, Paris-8.

りました使徒等は、更に之を信者方に分配して居りました。
 十一 下段の左方には、完全なる従順の一例として、ゼベデオの子聖ヤコブと聖ヨハネとの事が描いてあります。一口彼等が其細を修繕して居ります、イエズス様が其所へ御越になつて、「我に従へ」と仰せられました。其時彼等は、ゼベデオと共に働いて居りました者等を、船中に殘して、直に我主に従ひ、弟子となりました。
 十二 下段の右方には、潔白なる心を殊に愛し給ふ、イエズス・キリスト様と、其御側には、眞實なる、最も完全なる眞節に依て、著名なる、四位の聖人が居られます。御主の右方に居られます二人は、終生眞實なる聖マリア様と、洗者聖ヨハネであります。左側に居られますのは、聖ペテロと、福音史の聖ヨハネの一人であります。



慈善事業

第六十五圖

肉体的慈善事業

◎繪の説明

- 一 慈善とは、我等として、他人の不幸に同情し、且之を慰め扶けさせる徳であります。
- 二 慈善事業には、肉体的、精神的の二種あります。
- 三 肉体的慈善事業とは、他人の肉体的に對して、行はれる事業であります。
- 四 肉体的慈善事業の中主要なるものは、貧民の救助、病人の訪問、旅客の優待、死者の埋葬等であります。
- 五 此圖には、肉体的慈善事業が、描いてあります。

◎貧民の救助の事

六 第一の肉体的慈善事業は、貧民を救ふ事でありませう。

七 上段に描いてあるのは、福音者エリアが、ナレフタの寡婦の、油と麥粉を増加する所であります。其事は左の如くであります。イストラエル國が、饑饉で非常に困つて居りました時、エリアは天主様の御命令に依つて、シドン人の國の、ナレフタへ行きました。市の入口に着きました時、枯木を拾ふて居る、一人の寡婦に出逢ひました。エリアは之を呼ぶて、喉が渇きました故、水を二盃下さいと申しました。寡婦は水を汲みに行かんとしますが、背後から「何卒パンも少し持て来て下さい」と云ふ聲を聞きました。寡婦は之に答へて「汝の神なる主は祝せられ給へ、私はパンの爲には、家中に入る程の麥粉の中に少許の麥粉を、甕の中には少許の油しか有らませぬ。私と私の子どもが少し食べれば、死ぬ覚悟で、二人の爲に食物を作らうと思つて、枯木を拾ひに往へ来ました」と申しました。「心配なさるな、汝が申した通りに致しなさい。然し其前に、私の爲に幾つか少許の麥粉で小さいパンを作り、灰の下で之を焼いて、持て来て下さい。而して汝が

汝の子の爲に、パンを作つて下さい。何故ならばイストラエルの神なる主は、主が地上に雨を降らせ給ふ其日まで、此處中の麥粉は決して盡きず、小ぶ瀝の中の油は決して減らす」申されます。とエリアは云ひました。

八 此處に描は、天主様が、貧民に對して愛徳を行ひます者に、時に依つては、現世の利益を以てさへ、御報にならんと云ふ事を教へます。

九 上段の左方の角に描いてあるのは、一位の婦人が、貧民に施果をする所でありませう。

◎病人の訪問

十 第二の肉体的慈善事業は、病人を訪問する事でありませう。

十一 此事は左方に、福音者エリアが、病者ナレフタを以て、現はしてあります。我主イエスキリスト様が、申されますには「日某が、イエリヤレムから、エリコへ行く、途中、盜賊の手に陥り、刺がされ、創を負はされて半死半生にされました。偶然一人の司祭が、同じ路を下つて来て、之を見ましたが、其處通過しました。レウキ徒も此所へ近く過んで、之を見ましたが、同じく其處通過しました。然るに一人のサマリヤ人旅行して、其所へ來りて之を見て、哀憐の心を起し、進み寄つて其身に油と葡萄酒を注ぎ、其創を癒し、而して之を自己の馬に乗せて、旅館に携へ行き之を看護しました。翌日二ナレフタを、旅館の主人に渡して、能く看護して下さい、此外に要りました分は、何れ私が贈へりましてから、悉く支拂ひます」と申し、出立しました。

◎旅客の優待

十二 下段の左方の角に描いてあるのは、一人の博愛會の兼貞女が、病人を看護して居る所であります。

十三 第三の肉体的慈善事業は、旅客を優待する事でありませう。

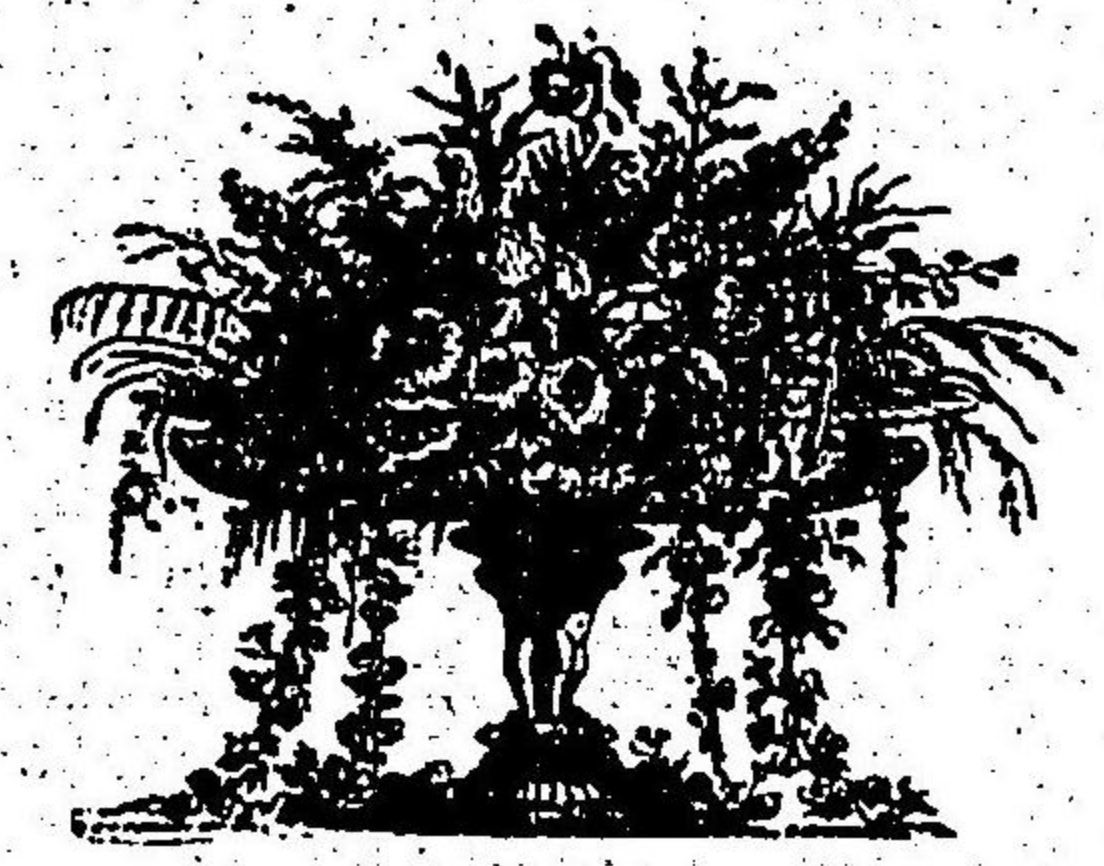
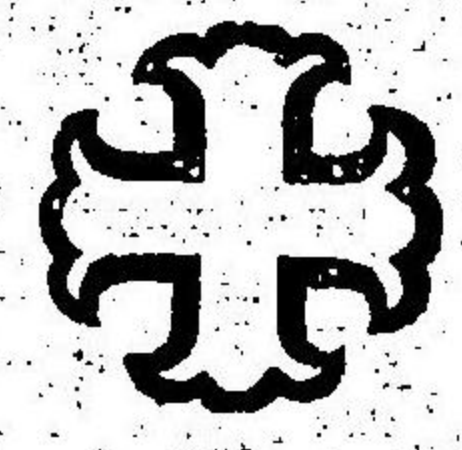
十四 此事は、下段に、アブラハムが、シドンでモモラとを、饑はしに行く天使等を優待する所を畫いて、示してあります。

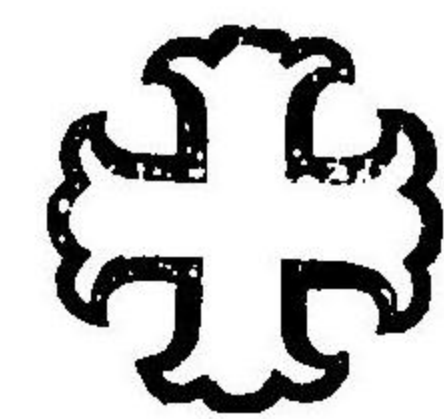
十五 下段の右方の角に描いてあるのは、修士が旅客を優待する所でありませう。



◎ 死者の埋葬

- 十六 第四の肉体的慈善事業は、死者を埋葬する事でありませう。
- 十七 此事は、中段の右方に、トピアが、自分と共に捕虜となつた、同國人の一人を、埋葬して居る所を書いて示してあります。
- 十八 上段の右方の角に記してあるのは、一人の司祭が、唯今埋葬した死者の上に、聖水を注ぐ所でありませう。





◎死者の埋葬

十六 第四の肉体的慈善事業は、死者を埋葬する事でもあります。

十七 此事は、中段の右方に、トピアが、自分と共に捕虜となつた、同國人の一人を、埋葬して居る所を畫いて示してあります。

十八 上段の右方の角に畫いてあるのは、一人の司祭が、唯今埋葬した死者の上に、聖水を注ぐ所であります。



慈善事業

第六十六

◎精神的慈善事業

一 精神的慈善事業とは、他人の靈魂に對して、行ふ事業であります。

二 精神的慈善事業の主要なるものは、無學な者を教育し、善い意見を教し、悲しむ者を慰め、又生者を、死者の爲に祈り又慰らせ、且司祭に請ふて、彌撒祭を獻げて救く等でありませう。

三 聖福音書に依れば、我等は世末に於て、精神的、肉體的慈善事業に就て、錢利を受くべき者であります。聖書には如此にしてあります。

人の子は己の威光を以て、地の元へ使を遣はし來格の時、其威光の座に坐したまはんと。而して萬民其前に集まるや、牧者が羊と山羊を別つ加く彼等と相分ち、羊を其右に、山羊を其左に置かん、時に王其右に在る者に言はん、吾父に服せらるる者よ、來りて世の創始より汝等の爲に備へられたる國を獲よ。今は我飢しに汝等我に食せ、我渴しに汝等我に飲せ、我裸せしに汝等我を被らせ、我凍なりしに汝等我に衣せ、我病みしに汝等我を訪ひ、我牢獄に在りしに汝等我に來りたれば也。此時善人彼に答へて曰はん、主よ我等何時汝の飢しを見て汝に食し、渴しを見て汝に飲せしや、何時汝の旅せしを見て汝を被らせ、或は裸なるを見て汝に衣せしや、何時汝の病み或は牢獄に在りしを見て汝に至りしや、王答へて彼等に曰はん、我誠汝等に告ぐ、汝等再此至らざれば、一人に行ひし時は、即ち是我に行ひし也。マテウ福音書第二十五章第三十一節乃至三十四節

◎繪の説明

注には精神的慈善事業が描かれてあります。

◎無學な者を教育する事

五 第一の精神的慈善事業は、無學な者を教育する事でありませう。

六 此事は、上段の中央に、洗者署「ハネ」が人民を教へ、而して自己に質問する人々に善い意見を致して居る所を畫いて示してあります。

七 上段の左方の角に畫いてあるのは、キリスト牧的學校の教師が其學生を教育する所でありませう。

◎善い意見を教す事

八 第二の精神的慈善事業は、善い意見を教す事でありませう。

九 此事は、中段の左方に洗者署「ハネ」が、「ローテ」王に向つて「汝の兄弟の妻を娶る事は、赦されずと、申して其不品行を咎めて居ります所を畫いて、示してあります。

十 下段の左方の角に畫いてあるのは、新聞賣子が、新聞雜誌に反對して、人民に眞實の宗教を、知らせ且之を好まされる目的を有つ善新聞を、賣つて居る所でありませう。

◎悲しむ者を慰める事

十一 第三の精神的慈善事業は、悲しむ者を慰める事でありませう。

十二 此事は、イエズス様が、ナイムの寡婦を慰め、其獨子を復活へらせ給ふ所を畫いて、示してあります。一日イエズス様が弟子等と共に、此市街に近づかれますと、一人の寡婦の獨子が死にまして、之を墓地へ送る處でありました。主は寡婦を御覽になりまして、同情に任へず「泣く勿れ」と云い、進み寄つて、柩を御抱へにかりました。乃て之を擔ひて居りました者は立止りました。其時主は、少者、我汝に行ふ、起きよ、と申されませう、死者は直に起上つて、言ひ始めました。主は之を其母に御渡になりませう。

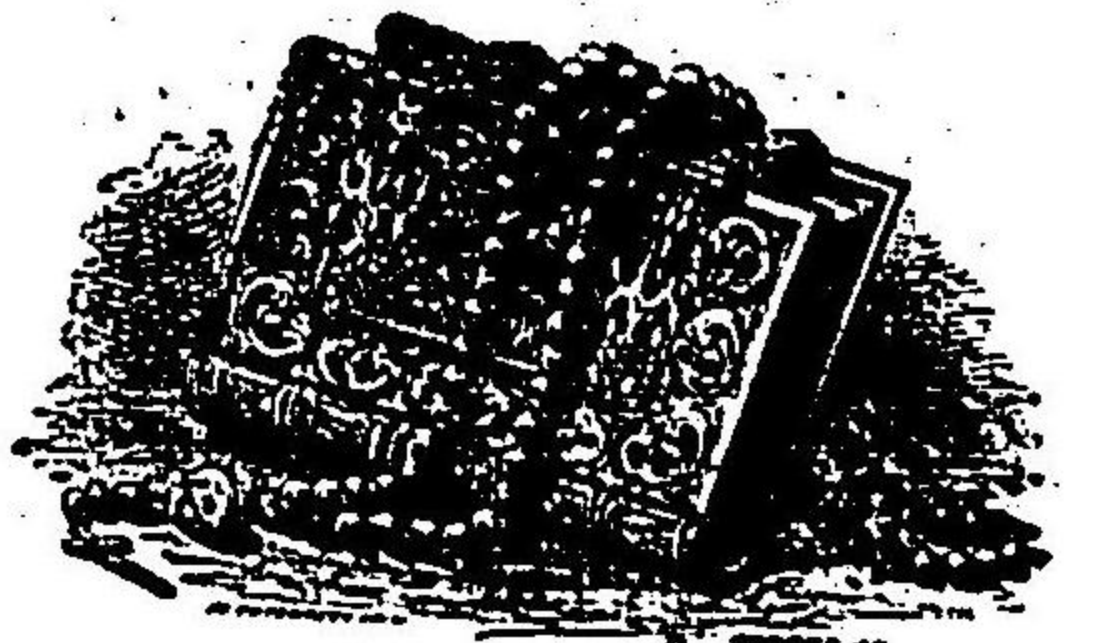
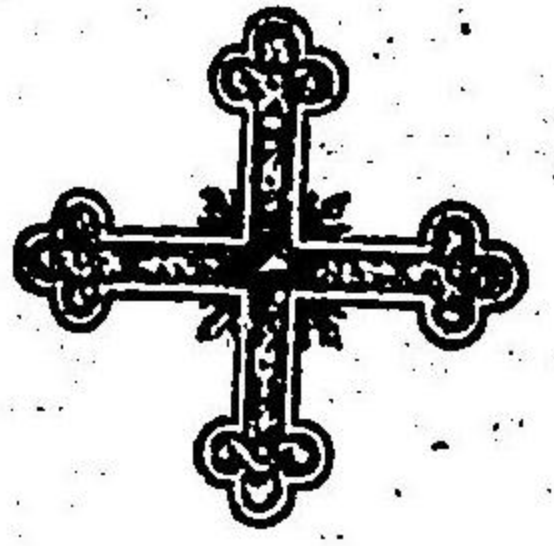
十三 上段の右方の角には、一人の青年が其家を離れんとして、天を指して、我等の相逢ふ場所は彼處であると申して、其弟を慰めて居る所を畫いてあります。

◎生者と死者の爲に祈る事

十四 第四の精神的慈善事業は、生者と死者の爲に祈り、且祈らせる事でありませう。

十五 此事は、下段の中央に、ユダス、マカベエが、其軍隊と共に、戦死した者等の爲に、祈つて居る所を畫いて、示してあります。ユダスは祈禱の後、附金を募つて、之をイエルサレムの聖殿へ送つて、死者の罪の爲に犠牲を献げました。

十六 下段の右方の角には、一婦人が既に死にました親戚の爲に、墓地で祈つて居る所が畫いてあります。



明治四十三年七月五日印刷
 明治四十三年七月八日發行

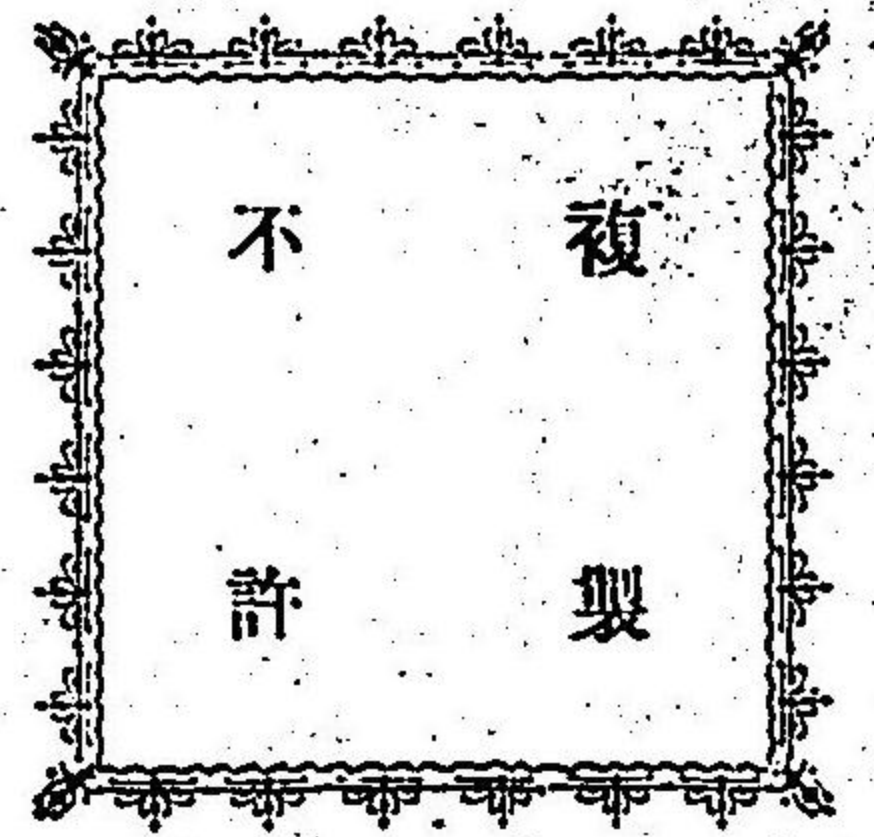
譯者 奈良市高畑町(天主公會)
 公教宣教師 ワグネル

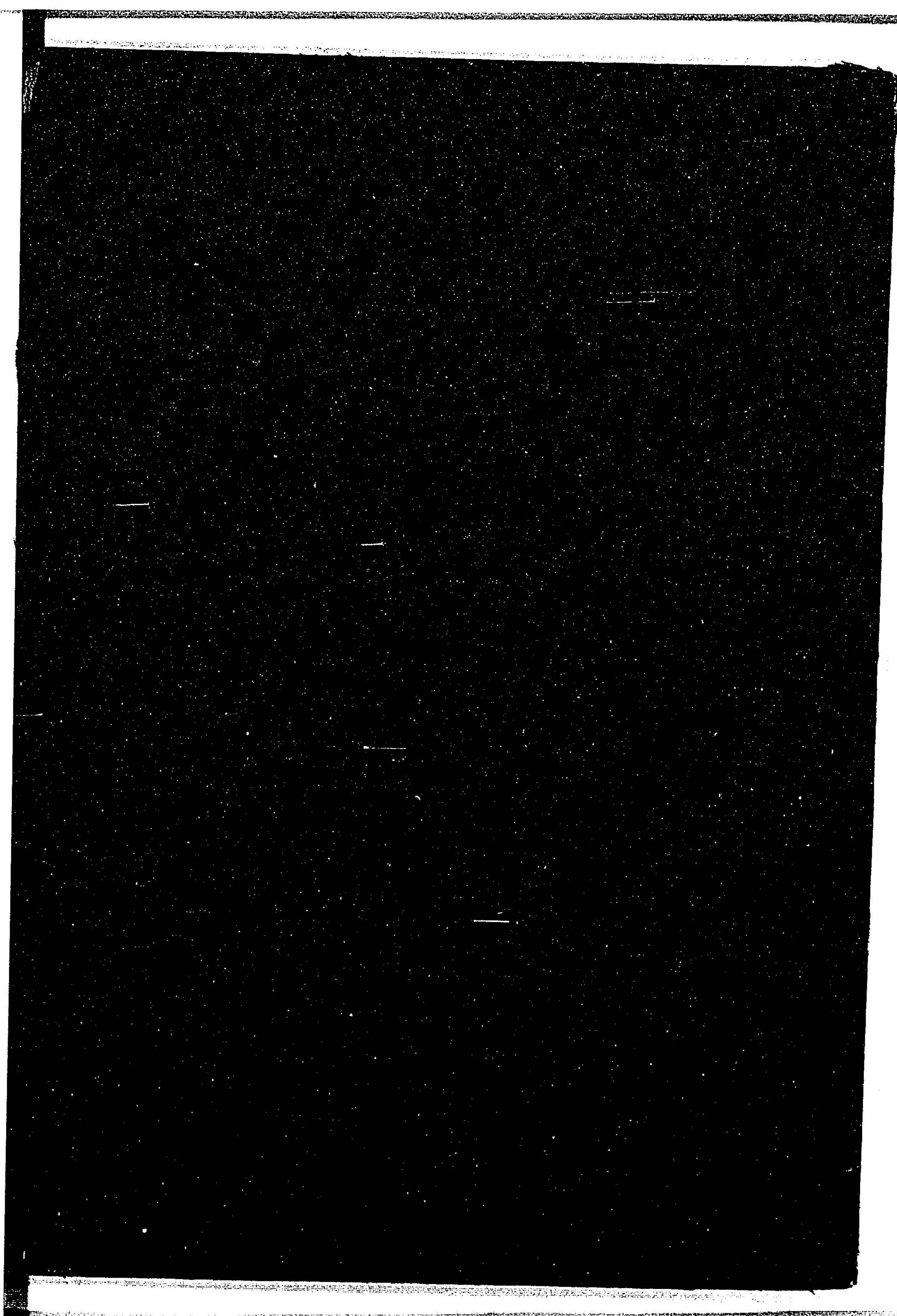
筆記者 大阪市東區内藏路町二丁目(天主公會)
 公教宣教師 増本寅吉

發行者 大阪市東區左官町五百二十四番地
 ハ、マ、ル、モ、ニ、エ

印刷人 大阪市東區左官町五百二十四番地
 戸澤東太郎

印刷所 大阪市東區左官町五百二十四番地
 聖若瑟教育院活版部





020629-000-9

409-29

公教要理図解

ワグネル/等訳

M43

ABI-0445

